

びつちゆう よしつね
備 中にも義経が!?

～陶山一族から村上一族へ～ (その2)



村上氏の家紋

かやのみか 自慢 子どもの新聞

さらに調べてみると、義高は、天皇をも巻き込む戦いに参加しているようだった。さらに、一族の名が変わっていたことが判明した。なぜだろうか……。

笠置山に籠城していた、後醍醐天皇。陶山らに攻められ、捕えられた。



Wikipediaより
(6年 江本 武宣、水金 弘貴)

笠置山の戦い

1331年、陶山義高軍が大活躍した、大きな戦い。陶山軍がいなければ敵を攻めきれず、たくさんの負傷者・死亡者を出していたに違いないだろう。

鎌倉幕府軍 vs 後醍醐天皇軍

後醍醐天皇は、比叡山をはじめとする寺社などを味方につけ、鎌倉幕府を倒す計画を企てる。だが、それを幕府の仲間の「六波羅探題」がを見つけ、攻めさせないようにした。

しかし、後醍醐天皇はあきらめず、京都府南部の笠置山城に居城した。笠置山は、険しいがけや、大きな山があり、外からは攻めにくくなっていた。だから、そこで再び作戦を立てていた。でも陶山軍はそれに気づいており、このことを幕府に話した。そして9月28日、笠置山城を攻めることにした。陶山軍は絶壁を登り、相手の城に火をつけ、暴れ回った。幕府軍は天皇軍を倒し、大勝利したのであった
(6年 森兼 優、江本 武宣)

笠岡地区
まちづくり
協議会
文化部会



<絵の解説>
笠岡武芸控から一戦いの様子
まっくら闇(やみ)である…。(略)自身は絶壁(ぜっぺき)にぶらさがったままている。(略)背中(せなか)に太刀を負い、小刀を後ろに差して、無心に一步、また一步と登っていった…。
(6年 森兼 優、水金 弘貴)

なぜ城主が変わった? ～村上氏になった理由とは～

『説1』
<インタビュー記録>
足利尊氏の弟がこじきに、「命だけは、助けてやるから陶山義高が逃げた場所を教えろ」とおどして、逃げた場所を白状させたそうです。そこで、尊氏の弟はどうとう義高を切り殺しました。さらに、場所を吐いたこじきの首も一緒ににはねたそうです。

『説2』
周防山口の大内義興が、勢力を拡大し、笠岡の本拠地を大内氏に奪われてしまったからだそうです。

『説3』
笠岡の城主が陶山氏から大内氏の家臣を経て、毛利氏の家臣、村上隆重、景広親子に至ったことによる。村上親子は、能島村上水軍の一族として笠岡で活躍した。
(6年 森兼 優、江本 武宣、水金 弘貴)

(インタビュー)
稲富稲荷神社宮司 江本英徳さん
インタビューは初めてで緊張したけど上手く行ってよかった。(6年 江本 武宣)
稲富神社は4百年以上前に造られたことなど沢山の情報が得られた。(6年 水金 弘貴)